

QOL

No.35

QOL サポーター 新潟

Quality Of Life



7月・8月・9月の計4日間にわたり「夏のオープンキャンパス」が開催されました。県内外からたくさんの方々にご来場いただき、大盛況のイベントとなりました。

INDEX

- 新潟医療福祉大学の地域貢献活動
- 卒業生レポート
- 基礎ゼミ 活動・交流会紹介
- クラブ&サークル紹介
- CAMPUS NEWS
- 第14回伍桃祭(大学祭)のご案内
- 大学院 イベントのご案内



新潟医療福祉大学

2014年9月10日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集

新潟医療福祉大学の地域貢献活動

本学では、新潟市北区をはじめ新潟市や新潟県等との連携による委託研究・委託事業、学生と教員との協働による地域貢献活動および災害支援活動等を推進し、年間1,500~1,700人(延人数)の学生および教職員が活動に参加しています。

「次世代人材育成支援事業」による取り組み

本学では、平成13年の開学以来、地域に信頼される大学を目指し、学生と教員が協働して地域貢献活動に取り組んできています。特に、北区の小中学校との連携については、学生による完全学校週5日制対応事業や子どもふれあいスクール事業、小中学校の学校行事等への支援を10年以上にわたって行っています。

小中学校との連携に当たっては、当初は、各小中学校との間で個別の連絡調整を行っていましたが、効率的でシステム的な連絡調整の仕組みが必要であるとの意見から、平成19年度に阿賀地区小中学校との連絡調整会議を開催しました。また、平成20年度からは北区全体の小中学校との連絡調整機能を持たせるため、北区小学校長会、北区中学校長会および北区教育事務所が参画し、連携事業の円滑な実施を図ってきました。

このような経緯を踏まえ、北区「特色ある区づくり予算」において、平成25年度から、学生との協働による「次世代人材育成事業支援」が新規に事業化されました。この事業は、学生の実践力(知識・技術等)を活用し、小・中学校および高等学校の学習環境等のバックアップと、次世代を担う小学生、中学生および高校生が生きる力を身につけることを支援すると共に、活力あるまちづくりに向けた基盤整備を図ることを目的としています。

具体的には、北区内の小・中学校等と本学が連携し、児童生徒の学習支援や特別活動等に対して、学生をスタディサポーターとして派



遣するもので、昨年度は延べ958人の学生が活動しました。

1年間の成果を北区の市民等へ発表する「地域連携推進フォーラム」(平成26年2月22日開催)では、葛塚小学校の児童、南浜中学校の生徒および本学の社会福祉学科と健康スポーツ学科の学生代表が活動報告を行いました。参加者からは、「学生が地域に貢献する重要性を理解できた」、「児童生徒と学生がWIN-WINになる活動を大切にしたい」、「親(保護者)の世代にもぜひ聞いてほしいと思った」、「学生との交流を通して学習支援やスポーツ指導が受けられる北区の子どもたちが羨ましい」、「このような活動は、北区だけでなく全市で取り組んでほしい」などとの声が寄せられました。

本学としては、これらの声を踏まえ、北区役所、北区小学校長会、北区中学校長会、および各小・中・高等学校と密接に連携しながら、平成26年度は北区内の小学校13か校、中学校8か校および高等学校において、約1,000人(延人数)の学生が学習支援をはじめ、学校行事等の特別活動、陸上競技等のクラブ活動を支援することとしています。



Topic

[全国大学の地域貢献度ランキング]

日本経済新聞社産業地域研究所調べ

看護・福祉系大学で



全国第1位! /

日本経済新聞社から発売された「日経グローバル233号(2013年12月2日発行)」の特集「全国大学の地域貢献度ランキング」内の大学設置形態別ランキング<看護・福祉系>にて本学が第1位(60大学中)にランクインしました。この調査は、全国の大学を対象に各大学の地域貢献度について、大学が人材や研究成果をどれだけ地域振興に役立っているかをポイントにランキングされます。

住民と学生との協働による 安心・安全な地域づくりの実践

【活動の目的】

佐渡市「域学連携」地域づくり実証研究事業は、佐渡市の未来を担う子どもをはじめ、障害のある人や高齢者が安心して心豊かに暮らし続けることのできる地域社会の形成を目指し、地域と大学が協働して日常生活圏域における「総合的な支え合いの仕組みづくりの実践」に取り組むことを目的とした活動です。本学では佐渡市からの委託を受け、平成24年7月に設置された佐渡市「域学連携」地域づくり実行委員会のもとで活動に取り組み、今年で3年を迎えました。

【活動内容・活動報告】

実施地区として選定された新穂大野地区は、人口437人、世帯数167世帯、高齢化率41.1%（いずれも平成26年3月31日現在）の地区で、佐渡市が直面している少子・高齢社会、人口減少社会の現状そのものを抱えており、鬼太鼓をはじめとする地域の伝統文化の継承、集落の祭り、共同作業の担い手が少しずつ減少するなどの問題もみられています。



年一回の活動報告会を行うフォーラム

活動の実施に当たっては、1年目には、延べ130人に上る学生と教員が納涼祭等の集落行事や農業用水路の清掃（江流作業）の共同作業、また郷平集落のサロン活動等の地域福祉活動への参加を通して住民との信頼関係の構築を丁寧に進めてきました。それらと並行して住民との車座トークやフォーラムの開催を通して住民の生活課題、地域課題の明確化および課題解決に向けた方向性等について実践的な検証を行いました。また、島外在住者と島内の家族や地域を繋ぐ社会的な仕組みのあり方について検討するために、佐渡市出身の島外在住者の方に対して、佐渡の良いところや不便なところ、島内の家族に対する心配ごとなどをお聞きするアンケート調査も行いました。

2年目には、延べ90人に上る学生と教員が参加し、前年度からの活動を踏襲しながら、2年目の目標であった高齢者の孤立感解消と住民の交流促進を目的としたサロンを下大野集落、上大野集落において開設することができました。サロン開設は、住民と学生とのワークショップにおける検討を活かし、準備委員会のリーダーシップと住民の方々のご努力により実現しました。

3年目である本年度は、これまでに明らかにした地域課題をより深め、「総合的な支え合いの仕組みづくり」として具体化するため、一人暮らし高齢者の個人の生活課題、特に孤立死予防のための見守り活動、買い物支援、移動支援等の必要性のためのヒアリング調査を行い、明らかになった課題に対しての解決策を検討、実施していく予定です。



江流（えりゅう）作業（集落内の農業用水路の泥上げ、草刈り）の手伝い



新穂大野地区郷平集落にてサロン活動に参加し、高齢者の方々と交流

耕作地を活用したサツマイモ栽培と その商品化事業

【活動の目的】

健康栄養学科では、「食を通じた地域貢献」の一環として「サツマイモの栽培とその商品化」に取り組んでいます。2012年度より始めている本活動は、新潟市北区農業委員会（首藤正男会長）の「耕作放棄地解消事業」に連携する形で始まりました。

【活動内容・活動報告】

本学に隣接する南浜の耕作放棄地を活動の場に、健康栄養学科学生有志と教員がサツマイモの苗植え付け（5～6月）から収穫（8～9月）に携わります。近年「シルクスweet」という新品種が世間の注目を集めており、初年度から本品種に取り組んだ結果、その優れた特性がスイーツ開発に幸いました。



サツマイモ苗の植え付け作業

年間を通じた活動の流れとして、まず入学式から日も浅い4月中旬に、1年生をはじめとして活動に参加する有志を募ります。植え付け作業に参加する学生は、農業委員の方々によるご指導のもとイモ苗を耕作放棄地に植えます。幼少期に植え付けを経験した学生にとって、久々の土いじりは実に楽しそうです。その後は週一回のペースで畑の巡回に出向き、雑草取りや畠返しなどの作業を行います（暑い日には、なかなかきつい作業です）。

8月下旬には、待望の収穫が始まります。この時も農業委員の方々からご指導を受け、畝を覆っていたマルチというビニールの撤去作業



楽しいサツマイモの収穫作業

から始まります。順調に生育すれば、1トン前後ものサツマイモが収穫できます。大きく太ったイモの掘り出しは最高の喜びのようで、学生も園児や児童に戻ったように喜々とした表情となります。

商品化は学生有志が4～5名のグループを作って、北区関係者（特産物研究協議会、農業委員会、製菓業の方々）の前でコンペティションを行うことから始まります。収穫された「シルクスweet」を使って試行錯誤しながら作成した試作品の試食を行い、レシピや工夫した点などを各班でアピールします。製菓業者の厳しい目に適った



開発商品の紹介と販売活動

試作品は、本格的な商品化に向けたプロの工夫段階へと進みます。その後も学生と製菓業者間で意見交換を行いながら完成していきます。

商品化されたスイーツは地域で販売されるだけではなく、長岡市で開催される「大学は美味しいフェア in 新潟」など各種イベントで提供される機会も多くあります。本年度は「大学は美味しいフェア」の全国版にも出店し、新宿で一週間にわたって開発商品の紹介と販売を行いました。このようなイベントを通して、地域は言うに及ばず、全県的さらに全国的な情報発信に貢献しています。

多くの笑顔を引き出したい!

私は今、理学療法士として、回復期から維持期の入院患者様・外来患者様の評価・治療を行い、身体機能の回復を目指す仕事に携わっています。

もともと人と触れ合う仕事に就きたいという思いがありましたが、学生の頃、理学療法士に出会ったのがきっかけで興味を持ち目指すようになりました。怪我や病気で今まで通りの生活ができなくなってしまった患者様やそのご家族の希望やニーズに応え、自分の手で治療をしていくことに大きな責任を感じながら日々仕事に取り組んでいます。治療効果が現れた時や、日々良くなっていく患者様の姿・笑顔を見ると、やってきて良かったなと心からやりがいを感じます。また、そこがこの仕事の魅力だと思います。

これからもより多くの患者様の笑顔を引き出せるような理学療法士になりたいです。

本学での学びは、現在の仕事にどのように活かされていますか?

本学では「多職種との連携」を学びました。授業でもゼミ活動でも他学科と交流する場面が多くあり、特に『連携ゼミ』では、一つの問題に対して各職種の立場からどの様にアプローチし、多職種と繋がりを持てば良いかを学ぶ良い機会だったと感じています。医療現場で働き、チーム医療で退院支援を行うことが必要となっている今、本学で得た経験が活かされていると強く感じます。

これから理学療法士を目指す高校生や在学生へメッセージをお願いします。

理学療法士の仕事は、責任も大きく大変な仕事ではありますが、様々な悩みや苦しみをを持った患者様が回復し、笑顔になっていく姿を間近で見ることができるやりがいのある仕事です。患者様が笑顔にできるような理学療法士が増えたら嬉しいです。共に頑張りましょう!



医療法人 崇徳会
長岡西病院
【理学療法士】
内山 紗希さん
新潟県 三条高校出身
理学療法学科 平成24年度卒業

01

利用者様と共に今後の生活を考える

私が勤務している新潟県障害者リハビリテーションセンターでは、障害福祉サービスの就労移行支援、自立訓練(機能訓練)、生活介護、施設入所支援を行っています。利用者様は10代後半から60代前半で、個々の目標に向けてリハビリを実施しています。

利用者様の今後の生活を考えるにあたり、利用者様自身に現在の能力に気づいていただかなければいけません。身体機能改善への期待や不安、就労に対する希望や挫折など現実を突きつけられることが多い時期に、利用者様に寄り添い、その方の強みは何かを見つけ、その能力を活かせる場はどこかを共に考えられる作業療法士になりたいと思っています。

本学での学びは、現在の仕事にどのように活かされていますか?

4年間で様々な授業を受けましたが、特に印象に残っているのは評価・総合実習です。今まで気づくことができなかった“自分”を知るきっかけになり、自身の未熟さや至らなさを痛感しました…。しかし、実習での苦い思いがあったからこそ、現在の職場で利用者様としっかり向き合い、仕事に励むことができていますように思います。

これから作業療法士を目指す高校生や在学生へメッセージをお願いします。

作業療法士は、幅広い年齢層の方を対象とし、様々な職種との連携が必要となる職業だと思います。そのため、勉強だけでなく遊びやアルバイトなどを通して、たくさんの人と関わり、たくさんの経験を積むことが大切だと思います。学ぶべきことが多く、大変なこともあるかもしれませんが、困っている人の力になれる素敵な職業だと思います。



新潟県障害者
リハビリテーションセンター
【作業療法士】
高野 友美さん
新潟県 新発田南高校出身
作業療法学科 平成20年度卒業

02

現場の第一線で活躍するOB&OGを紹介します。
仕事の魅力ややりがい、本学での学びや思い出についてお話を伺いました。

皆さんに支えられながら

私は、群馬県の重症心身障害児(者)の施設に勤務しています。現在は病棟担当としており、入所者様の摂食・嚥下訓練やQOL向上を目指した関わりを行っています。また、外来では自閉症スペクトラム、構音障害、ことばの遅れなどのリハビリを行っています。

学生時代から発達障害に興味があり、小児の分野で働きたいと考えていました。入職後、言語的なコミュニケーションを取ることが難しい重症心身障害児(者)の方々と関わることは初めての経験で、最初は戸惑いが大きかったです。しかし、声かけに笑顔で反応がみられたときや随意的な身体表出がみられたときはとてもやりがいを感じます。

まだまだ勉強不足を実感していますが、少しでも入所者様や患者様の力になれるよう努めていきたいと思っています。

本学を一言で表すとしたら何になりますか？

「出会い」

同じ夢を目指す仲間、夢は違っても医療・福祉の現場で働くことを目指す仲間、勉強だけではなく臨床での体験談などたくさんの方の事を教えてくださいました先生方、実習のバイザーの先生や患者様など様々な方と出会い、成長できた4年間でした。

これから言語聴覚士を目指す高校生や在学生へメッセージをお願いします。

本学では、実習に国家試験の勉強にと大変なこともありましたが、仲間や先生が親身になって相談のつてくれたり、お互い励まし合いながら勉強したりして乗り越えることができました。今では本学で学んだことを活かして、充実した毎日を送っています。

言語聴覚士として楽しく働いている未来の姿を思い描きながら、頑張ってください。「言語聴覚士になって本当に良かった」と思える日が必ず来ると思います!!



社会福祉法人希望の家
希望の家療育病院
【言語聴覚士】

近藤 あゆみ さん

新潟県 新発田高校出身
言語聴覚学科 平成23年度卒業

03

臨床を通し改めて感じた義肢装具士の魅力

中学時代に怪我をして装具療法を行ったことで義肢装具士という職業を知り、自らも物を作って人の役に立ちたいと思ったことが義肢装具士を目指したきっかけでした。現在は、主に訪問先での適合業務を行っています。

この仕事では何と言っても、利用者様に「この補装具のおかげで本当に助かっているよ。ありがとう。また頼むよ。」と感謝されたときに一番のやりがいを感じます。しかし同時に、ベストは尽くせたのか自問する日々です。また、義肢・装具はもちろん車椅子や靴など幅広く人の役に立てることも魅力だと思います。自分の得意な分野や、興味に応じて専門性を伸ばしていく豊富なチャンスがあります。

私はまだ3年目ですが、将来的には自分の専門性を高め、利用者様のQOL向上に努めていきたいと思っています。

本学を一言で表すとしたら何になりますか？

「礎となる場」

頼れる教師陣と充実した設備の整っている環境の中で、自分の礎を築くための大切な時間を過ごすことができました。特に、総合大学の強みを活かした『連携教育』は、学生のころから他のコメディカルスタッフへの理解とその特徴や関わり方の違いを学ぶのに、貴重かつ有意義な機会となりました。また、志を共にして学ぶ仲間と出会ったことも良かったと思います。全国各地で頑張っている仲間から、今でも良い刺激をもらっています。

義肢装具士を目指す高校生や在学生へメッセージをお願いします。

近年テレビ番組などで義肢装具士を見る機会が増えたように思いますが、まだまだ知名度は高くない職業だと思います。まずはこの「ものづくり」を介して医療に関わっていく専門職について知ってもらい、将来医療に携わりたいと考えている方の選択肢のひとつに加えてもらえたらと思います。少しでも興味があればぜひオープンキャンパスへ足を運んでみてください。

また、現在義肢装具士を目指し日々勉強に打ち込んでいる後輩の皆さん、共に利用者様のために力を尽くす日が来ることを臨床の現場で待っています。



有限会社 平賀義肢製作所
【義肢装具士】

中嶋 政勝 さん

岩手県 宮古高校出身
義肢装具自立支援学科
平成23年度卒業

04

基礎ゼミ



基礎ゼミは、1年生の全学生を対象に行われる少人数制のゼミです。学生は7～8名程度のグループに分かれ、各グループを教員1名が担当します。ゼミでは、健康で充実した大学生活を送るための基本的な能力を育むことを目的に、大学での学習方法や心構えなどを指導します。またディスカッションを数多く取り入れ、友人づくりやコミュニケーションの場としても活用されます。

01 ディスカッションで学んだこと

理学療法学科 1年 山際 成美



私のゼミでは「2分間の自己紹介」、「高校までの勉強法と問題点、大学ではどのような勉強法が良いか」、そして「スマートフォンの利点と欠点」についてディスカッションを行いました。

「自己紹介」では2分間すべてを使い切ることができず、今まで行ってきた自己紹介の内容がいかに薄いかを身に染みて感じました。また、「勉強法」については、驚いたことに全員が共通して高校までは丸暗記をしていたことが分かりました。話し合いの結果、大学では何事も関連付けて考えるとい

うことが大切だと学びました。そして、「スマートフォンの利点・欠点」では、メンバー全員が欠点ばかりに囚われ、利点について調べることができませんでした。題材自体をしっかりと理解した上で、「スマートフォンとは何か」という情報を収集・整理し、かつ選択していくことが必要であると学びました。

この活動を通して、自分の頭の中にある考えを言葉にまとめて表現することは思った以上に大変でしたが、話し合う能力を身につけることができ、今後の大学生活に役立つ経験ができたと思います。

02 基礎ゼミで得られた絆

作業療法学科 1年 鈴木 里奈



私のゼミでは、もっと多くの人に「作業療法士」のことを知ってもらうために、オープンキャンパスなどで新潟医療福祉大学を訪れる高校生のための資料やグッズを制作しています。

少人数のグループで研究や勉強をすることのできる基礎ゼミでは、担当していただく先生との距離が近く、またゼミ生同士で積極的に意見を交換することができるので、とても仲が良くなります。

また、7月には学生と教員との交流会としてドッジボール大会を行

いました。交流会では、普段、様々なことを教えてくれる先生たちの意外な一面が見れるなど、あっという間に時間が過ぎ、とても充実した1日となりました。入学当初は、慣れない環境で不安がいっぱいでしたが、この基礎ゼミを通じて、大学生活にスムーズに溶け込んでいくことができたと思います。

これからの4年間には、大変なことや辛いこともあるかもしれませんが、基礎ゼミで得られた仲間との絆を大切に、精一杯頑張ります！



01 理学療法学科
基礎ゼミメンバーでボウリング！



02 作業療法学科
先生方の意外な一面が見れたドッジボール大会

03 大学生活のスタート～基礎ゼミを通して～

言語聴覚学科 1年 鷹橋 鈴香



私たちは、言語聴覚士を目指して、本学科に入学し、授業で概論の講義を受け、さらに言語聴覚士の奥深さを知りました。

私たちの基礎ゼミでは、言語聴覚士が対象とする様々な障害について調べました。初めは慣れないことが多く不安に感じていましたが、個人作業の中で分からないところは助け合いながら進めていきました。担当の先生はゼミ生同士が話しやすい雰囲気を作ってくださったり、分からないところは的確なアドバイスをしてくださったりと、とて

も学びやすい雰囲気でした。また、「勉強の分からないところ」、「サークルについて」、「高校時代の話や近況について」も話し合う中で、みんな新しい環境は不安だと分かり、自然と仲を深めていくことができました。今では基礎ゼミの時間が楽しみになっています。

私は基礎ゼミの時間を通して、少しずつ大学生活に馴染んでいることを実感しています。そしてこれからも充実した大学生活を送れるよう頑張っていきたいです。

04 先輩とも仲良くなれたBBQ交流会

義肢装具自立支援学科 1年 安部 輝充



6月に、基礎ゼミ活動の一環としてBBQ交流会が、大学近くの「海辺の森」で行われました。2年生の先輩方が中心となって準備していただき、私たち1年生はまるでお客様のような形で招待されました。

基礎ゼミは、1年生5名で構成されていますが、担当教員のもとには各学年で構成されるゼミがあり、私が所属する阿部先生が受け持っているゼミには1～4年生だけでなく大学院のゼミ生もあり、約30名もの参加者がありました。

スタートしたばかりの大学生活において、様々な不安もありますが、肉や野菜を焼きながら先輩方からアドバイスをいただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。特に勉強やテストのことなど、自身の体験をもとに話して下さるので親近感もわき、先輩後輩のタテのつながりを重視する義肢装具自立支援学科のポリシーを直に感じる事ができました。来年は私たちが新入生の不安を少しでも解消してあげられるように、同じことをしてあげたいと思います。

05 医療機器の調査で得たこと

臨床技術学科 1年 前田 岳



私たちのゼミでは、基礎ゼミの一環として各自で興味のある医療機器を選び調査し、レポートにまとめてゼミ内で発表会を行いました。

今までは、医療機器について漠然とした知識しかありませんでしたが、この活動によって基本的な構造や作動する仕組みなどを先生方のサポートを得ながら学び、医療機器について理解を深めることができました。そして同時に、レポートの作り方や発表の練習にもなり、今後自分がどのようなことを勉強するのかイメージを持つことができました。

また、興味のある分野は皆それぞれ違っていたため、他の学生の発表は、今まで自分があまり興味なかった分野についての知識を得る良い機会になりました。なにより、私がこの学科に入学して何を学び、何をやりたいのかという目標を再確認することができました。

入学当初の夢や目標を忘れずに、幅広い分野で活躍できる臨床技術者となるように今後も精一杯学んでいきたいと思っています。



03 言語聴覚学科
言語聴覚士が対象とする障害の調査



04 義肢装具自立支援学科
先輩とタテのつながりができたBBQ!



05 臨床技術学科
調査した医療機器の発表会

06 基礎ゼミ交流会を通し感じたこと

視機能科学科 1年 太田 佳乃子



視機能科学科の基礎ゼミ交流会では、まず4月半ばにゼミ対抗バレーボール大会を行いました。まだ自己紹介程度でしか相手のことを知らない中で行うことに少し不安はありましたが、自分がミスをしたところをチームの人たちが協力してカバーしてくれたり、失敗しても互いに励まし

合ったりと、交流を深めることができましたと感じています。

また、5月にはBBQパーティーを福島潟で行いました。下準備から後片付けまで学生、教員全員で行いました。後片付けで器具の取

り外しができなかったゼミに、他のゼミの人が積極的に手伝う姿を見て、改めて助け合いの意識が強い学科だと感じました。

この基礎ゼミ交流会を通し、本学科は、近年の医療の現場で求められる「チーム医療」に必要とされる互いに協力し助け合う力が強いと感じました。そして、この環境の中で実習活動などを行い、患者様に求められる視能訓練士になることに強い希望を持ちました。

07 基礎ゼミ講演会を聞いて学んだこと

健康栄養学科 1年 三富 悠生



私たちの基礎ゼミでは、いくつか講演を聞く機会があり、その中でも東京工芸大学：大島武先生の「プレゼンテーションの基礎を学ぼう!」という講演会が印象的でした。講演会では、プレゼンテーションには「分かりやすさ」が大切で、そのためには結論から話し、理由・詳細は具体的に話すこと、話を3つ(導入・本論・結び)に構造化すること、相手の反応に合わせ、相手に分かる言葉でゆっくり話すこと、自信を持って言い切ることが重要だということです。その理由は、「人はわからない」、「難

しい」と思った途端、心を閉ざしてしまうからだそうです。また話し方としては、聞き手の目を見て、笑顔が心がけて、良い印象を持ってもらうことも重要だそうです。講師の先生自身お話がとても上手で、説得力がありました。

私たちは将来、管理栄養士として人々の前に立ち、栄養に関する様々なことを説明したり伝えていかなくてはなりません。今回の講演で学んだことを活かし、分かりやすく伝える努力をしていきたいです。

08 学生・教員交流会で学んだこと

健康スポーツ学科 1年 中村 俊太



健康スポーツ学科の学生・教員交流会では、ゼミ対抗で長縄跳びを行い、教員と学生合わせて約240名が体育館に集い、親睦を深めることができました。

健康スポーツ学科らしく、どのゼミのチームも凄いスピードで縄が回っていました。私たちのゼミのチームも、最初はゆっくりだったペースが徐々に速くなり、息が弾むくらいの運動になりました。決められた時間内で跳べた回数は初めよりもだんだんと伸びて、この活動で一体感や達成感を味わ

ことができました。

これから4年間、授業や実習、課外活動などでこのような一体感や達成感を得る機会が多いと思いますが、失敗や挫折することもあるはずです。しかし、どんな時でもチームワークを大切にしていきたいと思います。そして、スポーツ分野のことをたくさん学び、様々な経験を通して、優れたQOLサポーターを目指していきたいです。



06 視機能科学科
福島潟でBBQパーティー!!



07 健康栄養学科
各自用意したおかずでバイキング★



08 健康スポーツ学科
長縄大会集合写真~!

09 基礎ゼミで得たもの

看護学科 1年 本間 萌華



私たちの基礎ゼミでは、一週間を振り返ることから始め、文章読解や討論、レポート学習を行ってきました。まず、一週間を振り返ることで改めて自分自身を振り返ることができ、また他のメンバーの話聞くことで身が引き締まることもありました。

文章読解や討論では、新聞記事を読んで意見交換をしたことで様々な方向から物事を見ることができるようになりました。レポート学習では、テーマを「ディズニー」に設定し、各自プレゼンテーション

を行いました。レポートを作成することに慣れていないため、資料を集める点において戸惑うことや苦勞することもありましたが、新しい知識を吸収することができて、これからの大学生活に活かせる力が身に付いたように思います。

最初は、緊張して自分の意見を言えないこともありましたが、最終的にはゼミ生同士で話を進め意見を交わせるようになりました。お互いを高め合い成長できる仲間と出会えたことが、ゼミで得た一番の宝だと感じました。

10 障害者施設を訪問して

社会福祉学科 1年 堀内 花奈



「障害」について浅い知識しか持ち合わせていなかった私は、基礎ゼミを通してそれまでの認識が覆されるほど深く知ることができました。驚いたのは障害の種類の多さで、一言で「障害」と言っても、身体障害、知的障害、精神障害と大きく3つに分類されます。さらに、障害の違いや程度によって、利用できるサービスや施設なども変わってきます。

ゼミ活動で訪問させていただいた施設「クローバー」では、様々な障害に対応しており、私はその中で主に知的障害を持った方が通っ

ている就労継続支援B型事業「歩みの家」を見学させていただきました。見学の中で、飛行機の洗浄機の部品を抜き取る仕事のお手伝いをさせていただきましたが、非常に難しく戸惑ってしまいました。そんな時、利用者の方々に優しく教えていただき、短い時間でしたが大変有意義に過ごすことができました。また、利用者の方々の笑顔や優しさに触れたことで、私の中で障害の概念が変わったような気がします。

その後の授業や施設見学を通じて、さらに障害について知りたくくなりました。今後もまた機会があれば、進んで関わっていきたいと思います。

11 基礎ゼミを通して得たこと

医療情報管理学科 1年 近 太陽



私たちの基礎ゼミは、アンケート調査やインターネットを使い様々な視点から、「新潟市内の美味しいラーメン屋さんを探そう」というテーマで調査を行いました。また、調査だけではおいしいかどうか分からないという意見から、実際に自分たちでラーメンを食べに行こうという結論にいたりしました。

アンケート調査では、他学年や他学科の方とたくさん交流することができました。また、実際にラーメンを食べに行くことにより、お互

いのことを知ることができ、ゼミの学生間の雰囲気がとても良くなりました。基礎ゼミの時間は、学生が主体となり、自分たちで何をするかを決めて活動していくため、苦勞することもありましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。

基礎ゼミを通して得たことは、多くの方と交流する機会を得たことにより大学生活に慣れ、ゼミのみんなと楽しく充実した時間を過ごせたことです。

基礎ゼミで学んだことを忘れずに、今後活かしていきたいです。



09 看護学科
みんなで仲良くお菓子パーティー♪



10 社会福祉学科
基礎ゼミでの活動の様子



11 医療情報管理学科
調査するラーメン屋さんを訪れて...

PICK UP!!

CLUB & CIRCLE

大学生活をより楽しいものにしてくれる
クラブ&サークル活動。

本学では、60以上ものクラブ&サークル
があり、多くの学生が所属し、学業との両
立を実現しています。



レクア.コム部

レクア.コム部は「レクリエーション&コミュニケーション」の略です。

私たちは、人と“触れ合う”ことを軸に、障害の有無や年齢差に関わらず参加者や地域の方々とレクリエーションやボランティア活動を行い、共に楽しむことを通して、自己の成長に繋げることが最大の目的として活動しています。

DATA ◎活動人数：292名
◎活動場所および活動日程：各活動団体によって異なる(下記活動内容参照)

interview



部長
作業療法学科 3年
鎌田 春香

■入部したきっかけを教えてください

私は将来、医療従事者になるうえで、自分のコミュニケーション能力や社会性について不安がありました。そんな時、様々な人と触れ合うことができるこの部の活動内容を聞き、4年間の活動を通して何かを得て自己成長できる!と思い入部を決めました。

■部活の魅力を教えてください

10もの活動団体があり、子どもから高齢者・障害を持った方まで、幅広い人と接することができることです!最近では、国際交流も行っています!また、部員は学内最大の292名が所属しているため、横だけでなく縦の関係も強く、学内だけでも社会的な身につけることができるのがこの部活の魅力です。

■活動団体が多いのが特徴ですが、部員全体で集まることはありますか?

全員を対象に、春と夏に総会、4月に新人歓迎会、6月には地域の方主催のBBQ、12月には忘年会を開催しています。11月には、地域の方やOB・OGの方々もお招きして四送会も盛大に行っています。

■今後の活動の抱負をお願いします

レクア.コム部は大学開学当時からある伝統的な部活ですが、活動目的は設立当時から変わりなく、ボランティア活動は「手段」であり、「自己成長・自己実現」を目的としています。誰かのために無償で社会的奉仕活動をするに加え、レクア.コム部だからこその目的を持って今後も活動していきたいと思っています。

活動内容

マーブルチョコ

◎活動日程：年5~6回
◎活動人数：25名程度
◎活動場所：
新潟県立特別支援学校、
新潟ふれ愛プラザ等



新潟県立大学の「テルテルボーイズ」の学生と、特別支援学校に通う子どもたちを対象にレクリエーションや学外活動などを行っています。学生はイベントの企画運営の他に、子どもたちの排せつや水分補給のお手伝いなども行います。7月の活動では七夕祭りを行い、短冊に願い事を書き笹に飾りつけをしたり、織姫と彦星が会うことができるようにみんなで協力して星を集める、といったレクリエーションをしたりして楽しみました。また、毎月第4土曜日には子どもたちと一緒にエアトランポリンやボールプールで遊んだり、出し物を見たりする「遊ぶ会」も行っています。

完全学校週5日制対応事業 少年クラブ「一休さん」

◎活動日程：毎月第3土曜日
◎活動人数：30名程度
◎活動場所：北地区公民館等



一休さんは、北地区の小学生を対象に昔遊びやクッキング、ミニ運動会など様々な体験活動を通じて、他学年・他学校の子もたちと地域・学生たちが交流できる活動をしています。活動の主役は子どもたちですが、地域の方々からのサポートのもと、私たち学生が中心となって企画・運営を行っています。子どもたちの元気に活動する姿や、「楽しい!」の声、キラキラとした笑顔から、私たちはたくさんの元気をもらっています。一休さんでの体験活動が子どもたちにとっても私たちにとっても、成長のきっかけに繋がれば嬉しいです。

ハートフル

◎活動日程：月1・2回
◎活動人数：2~10名程度
◎活動場所：有料老人ホーム ハートフルケア新通

ハートフルは、老人ホームを訪れ、手伝いをしたり、施設内の装飾を折り紙や画用紙で作成したり、おやつを作り利用者の方やそのご家族の方に食べていただいたり、様々な活動をしています。また、秋に行われる音楽祭では、利用者の方の前で歌を発表するなど、手伝うだけでなく実際に行事に参加することもあります。こうした活動の合間には利用者の方と楽しくコミュニケーションをとることができます。大変なこともあります、利用者の方の笑顔を見た時や、「ありがとう」の言葉をいただいた時は、ボランティアをしていて本当に良かったと心から思える瞬間です。

イルカの会

◎活動日程：年3~4回
◎活動場所：三条市

自閉症の子どもたちを対象としたミニスポーツ活動。

育成会

◎活動日程：毎月1回
◎活動場所：
新潟市総合福祉会館

知的障害者の方々と一緒に歌ったり踊ったりして音楽を楽しむ。

ほがらか

◎活動日程：毎月1回
◎活動場所：
グループホーム

障害を持った利用者の方々との触れ合い活動。

浜ふれ

◎活動日程：毎週水・土曜
◎活動場所：松浜小学校

松浜小学校で、スポーツやレクリエーション等を行う。

わくわく広場木崎小スクール

◎活動日程：毎週水曜
◎活動場所：木崎小学校

木崎小学校で、放課後子どもたちと遊ぶ。

はまなす

◎活動日程：年4回
◎活動場所：松浜地区

駅伝や阿賀野川ござれや花火等を主催する北新潟地域づくり学会の手伝い。

希望の園

◎活動日程：週3~5日
◎活動場所：
太夫浜 ケアハウス希望の園

目の不自由な利用者の方の誘導補助および他の利用者の方々と交流等。

本学最大のイベント!「夏のオープンキャンパス2014」が行われました

NEWS 01

7月19日(土)、8月2日(土)・3日(日)、9月6日(土)に、「夏のオープンキャンパス2014」が開催されました。

全11学科による「学科別説明会」をはじめ、フリープログラムでは、「大学概要説明会」、「教員・在学生による個別相談」や「施設見学ツアー」、入試に向けた「AO入試説明会」「公募推薦入試説明会」、本番の面接の雰囲気や臨場感が味わえる「模擬面接室公開」、そして各学科の学びをより理解していただくための「学科別体験プログラム」など、様々なプログラムが実施されました。参加者が希望する学科のプログラムはもちろん、興味のある複数の学科に足を運んでいただき、総合大学ならではの魅力を体験していただくことができました。

また、多くの学生スタッフとの交流や、特別プログラムとして開催され

た「クラブ・サークルによるスペシャルパフォーマンス」等を通じて、新潟医療福祉大学でのキャンパスライフをより身近に感じていただくことができました。

本年度の夏のオープンキャンパスは、これですべて終了となります。

10月以降も様々なプログラムを実施しますので、機会があればぜひ一度、新潟医療福祉大学まで足を運ぶください。



【オープンキャンパス日程】10/4(土) 11/2(日) 12/6(土)

本学キャンパスにて薬物乱用防止講演会が開催されました

NEWS 02

7月23日(水)新潟市保健所の主催により、1年生を対象にした薬物乱用防止講演会が開催されました。

近年のインターネット等の普及に伴い、覚せい剤、大麻やMDMAなどの錠剤型合成麻薬や違法ドラッグなどの薬物が手軽に入手できることから、未成年者や20歳代の若者の間に薬物乱用が広がっていくことが危惧されてきております。また、昨今大学生の大麻汚染や危険ドラッグによる健康被害や交通事故等が相次ぎ報道され、若者の間において、薬物乱用が社会問題となっております。

こうしたことから、これからの社会を担っていく若者を中心に薬物の恐ろしさや正しい知識を啓発していくことを目的とした講演会を実施しました。

■演題/「薬物依存症の息子を抱えて」

■講師/新潟県薬物依存症者を抱える家族の会

小西 憲氏 小西 美代子氏

当日は約900名の学生が参加し、薬物依存症の息子さんを抱えた小西さんご夫婦の講演に聞き入りました。学生の感想には「実際に体験された方のお話だったので、薬物乱用の危険性がとても強く伝わった」「絶対に手は出さないようにし、誘われても勇気を持って断れるようにしようと思った」等の感想がありました。



第14回新潟医療福祉大学 学術集会のご案内

NEWS 03

今年度の学術集会は、大会テーマを「地域包括ケアシステムの構築と保健・医療・福祉専門職の役割」とし、研究発表やシンポジウムなど

のプログラムを用意しています。参加は無料で、事前申し込みも必要ありません。多数の方々のご来場をお待ちしています。

日 時：平成26年10月25日(土) 13:30～

会 場：新潟医療福祉大学

大会長：丸田 秋男(新潟医療福祉大学 社会福祉学部 学部長・教授)

●特別講演『新潟市における「地域包括ケアシステム」構築について－医師会の取り組みを中心に－』

講 師：藤田 一隆(一般社団法人新潟市医師会 会長)

●シンポジウム

『地域包括ケアシステムの構築と保健・医療・福祉専門職の役割』

座 長：小山 剛(社会福祉法人長岡福祉協会・高齢者総合ケアセンターこぶし園 総合施設長)

平成27年度 入学選考試験のご案内

NEWS 04

本学では、個性を活かすことのできる様々な試験区分を設けています。それぞれの特色を理解し、自分にあった試験区分を選択し、受験に臨んでください。

保健・医療・福祉・スポーツ分野のスペシャリストを目指す、意欲溢れる皆さんからの出願をお待ちしています。

■募集学科・募集人員

理学療法学科 80名
作業療法学科 40名
言語聴覚学科 40名
義肢装具自立支援学科 40名
臨床技術学科 80名
視機能科学科 50名
健康栄養学科 40名
健康スポーツ学科 200名
看護学科 80名
社会福祉学科 120名
医療情報管理学科 80名

■入学試験日程

※出願前にエントリーが必要となります。詳しくは本学HPまたは学生募集要項をご参照ください。

試験区分	学 科	出願期間	試験日	
AO入試	全学科	受付終了	第1次 9/13(土) 第2次 10/11(土)	
推薦入試	公募推薦(前期)	全学科	10/24(金)～11/4(火)	
	公募推薦(後期)	義肢装具自立支援学科 社会福祉学科 医療情報管理学科	12/1(月)～12/9(火)	
	指定校推薦	全学科	10/24(金)～11/4(火)	
	スポーツ推薦	前期 健康スポーツ学科	10/24(金)～11/4(火)	11/15(土)
		後期 健康スポーツ学科	12/1(月)～12/9(火)	12/13(土)
特別推薦	理学療法学科 臨床技術学科 医療情報管理学科	10/24(金)～11/4(火)	11/15(土)	
社会人等特別入試	全学科	10/24(金)～11/4(火)	11/15(土)	
センター試験利用入試(前期)	全学科	1/7(水)～1/26(月)	本学独自の個別学力 検査等は課さない	
センター試験利用入試(後期)	理学療法学科 臨床技術学科 視機能科学科 健康スポーツ学科 看護学科 医療情報管理学科	2/10(火)～2/23(月)	センター試験実施期日 1/17(土) 1/18(日)	
一般入試(前期)	全学科	1/7(水)～1/21(水)	2/4(水)	
一般入試(後期)	全学科	2/10(火)～2/23(月)	3/6(金)	
3年次編入試験	①健康スポーツ学科※ ②看護学科 ③医療情報管理学科※	①③9/25(木)～10/2(木) ②受付終了	①③10/11(土) ② 9/13(土)	

学友会

第14回 伍桃祭(大学祭)案内

今年の
テーマ

「grow up」

新潟医療福祉大学は今年の春に14期生を迎え、それに合わせて伍桃祭も今年で14回目を迎えることができます。まだまだ歴史の浅い新潟医療福祉大学ですが、年を重ねるごとに大学、そして学生自身が進化していることを実感しています。そこで14回目となる今年の伍桃祭は、より新潟医療福祉大学を進化させようという思いを込めて、「grow up」というテーマで開催します。当日、来場者の方々が飛び跳ねるくらい楽しんでもらえるようなプログラムを考え、伍桃祭実行委員を中心に準備を進めています。

今年の伍桃祭では、毎年恒例の『模擬店』や『Mr.&Ms.コンテスト』、また、ステージではクラブ&サークルによるバラエティ豊かなパフォーマンスを行います。迫力のある渾身のパフォーマンスをぜひご覧ください。さらに、スペシャルゲストとして「ケラケラ」によるライブも開催されますのでお見逃しなく！

最後になりますが、伍桃祭は協賛をいただいた企業様やお越しいただく皆様のおかげで成り立っています。今年も多くの協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

11月2日・3日の2日間、新潟医療福祉大学にて、たくさんの方のお越しを心よりお待ちしております。

第14回伍桃祭実行委員長兼学友会副会長 阿部 友弥

イベント案内

- 「ケラケラ」によるライブ
- クラブ&サークルによる発表
- 模擬店
- Mr.&Ms.コンテスト
- チーム対抗クイズバトル
- 出展グランプリ

このほかにも交流イベントが満載です。ぜひお越しください。

11/2日
3月祝



大学院

各種イベントのご案内

「大学院オープンキャンパス」や、伍桃祭と同日に開催する「公開セミナー」などのイベントを開催予定です。本学大学院に直接触れることができる機会ですので、ぜひご参加ください。多くの方のご参加をお待ちしております。

※いずれのイベントも

詳細情報については大学院ホームページ (<http://nuhw.ac.jp/grad/>)でご案内しています。また、お問い合わせは大学院入試事務室(E-mail: grnyuusi@nuhw.ac.jp)までお願いいたします。

★大学院オープンキャンパス

10/4
10:00~

- 大山峰生研究科長による講演
 - 修了生、現役大学院生による座談会
 - 大学院概要説明会・個別相談など
- 申込受付 / 10月1日(水)まで

11/2
10:00~

★大学院公開セミナー及び 大学院概要説明会

- 理学療法学分野
久保雅義教授による公開セミナー
- 社会人院生の研究生活紹介
- 大学院概要説明会・個別相談など

12/6
10:00~

★文献検索セミナー(基礎編)及び 大学院説明会

- 図書館司書による文献検索セミナー
 - 大学院概要説明会・個別相談など
- 申込受付 / 12月3日(水)まで
(定員あり)



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL 025-257-4455(代) FAX 025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
携帯サイト <http://www.nuhw.ac.jp/m/>
【入試事務室】TEL 025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっていきます。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポーター)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様にも本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

